



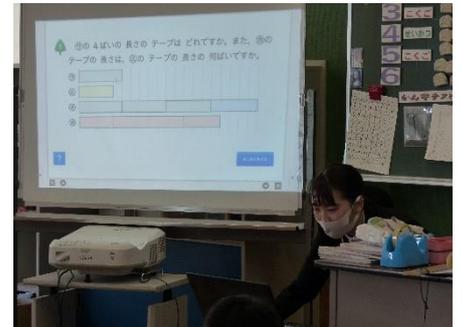
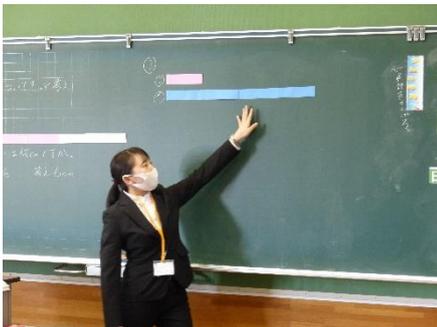
# 未来を夢見て

2020/11/24 No. 48

## 教育実習・研究授業を終えて

3連休明けの11月24日(火)、11日からスタートしたお二人の教育実習生の研究授業が行われました。2校時目はA先生、2年1組で算数の授業が行われました。引き続き3校時目はS先生、5年3組で国語の授業が行われました。

当初予定していた期間よりは短い教育実習の期間となりましたが、お二人とも日々誠実に子供と向かい合い、授業作りに真摯に取り組むことができました。今日の研究授業では、本校のベテランの先生方に見守られる中での授業提案だったので、さぞ緊張することかと思いましたが、最近の若い人たちは本番に強いというか、先生方の目を気にすることなく堂々と授業をしていたので、まずここに感心しました。自分の学生時代を思い起こすと、声がうわずったり、手が震えて黒板に文字が上手にかけなかったり、あげくの果ては、途中で時間がかかりすぎて最後まで行かず、次の実習生に迷惑を掛けたりしたのですが、今日の二人からは、全くそのような姿は感じられませんでした。



お二人の授業で改めて(いいなあ)と思ったことは、まず、教具を準備していたこと。算数ではテープ、国語では模造紙。具体物は子供の思考を具体化する上でとても有効ですね。また、机間指導をきちんと行っていました。本校は、どの教室も30人を超える大規模校ですが、それでも一人一人を丁寧に見取る姿を担当の先生方からお二人がしっかり学んできたことが分かりました。さらに、電子教科書やPCも上手に活用していました。これからの教室はICT機器の活用は必須です。短期間の間に、ここまで使用できたことは見事でした。



明日にでも現場に出る資質のある二人ですが、その前に教員採用試験が控えています。残りの学生生活を充実させながら、採用試験に向けてしっかり準備をしてくれるものと期待するところです。

最後に、お二人に感じてほしいのは、今回このような授業ができたのも、指導教員である齋藤先生、青砥先生の学級づくりがあったからこそです。2年生の子供たちも5年生の子供たちも、齋藤先生や青砥先生のお話を聞くのと同じように、しっかりとお二人の話を聞いている姿が印象的でした。将来現場に立ったときは、ぜひ今日の学級の子供たちの姿を目指した学級づくりに取り組んでほしい、と思います。

2週間、ご指導いただいた齋藤先生、青砥先生ありがとうございました。そして、実習担当で中心となって計画を立てていただいた堀田先生はじめ、講話をしていただいたり、授業を参観させていただいたりした先生方、皆さんありがとうございました。

(文責：手代木)